

日本物理学会 2026 年春季大会

領域 8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2026/3/25（水） 18:00-19:10

開催地：オンライン(zoom)

議長：黒木 和彦（領域代表，阪大）

司会：中山 耕輔（運営委員代表，東北大）

議事録作成：松本 圭介（書記，愛媛大）

出席者

参加者：26 名

議題 1：プログラム編集について（中山）

1. 全てのセッションがオンライン開催.
2. 口頭発表は 2 会場の開催.
初日午前から最終日午後までの計 15 セッション.
共催：領域 3 と 2 講演，領域 4 と 1 講演・領域 9 と 1 講演（各 1 セッション）.
3. ポスター発表は 2 会場開催の計 2 セッション.
4. 若手奨励賞授与は 2 日目午前，シンポジウム講演（1 件）は 2 日目午後.
5. 学生優秀発表賞に 11 名がエントリーし，講演を審査中.
6. 講演申し込み〆切は 1 月 8 日. 昨年とほぼ同じ日程.

今大会の講演数について

【2026 春 (オンライン)】

	口頭	ポスター	合計
低温	96	17	113
磁性	40	27	67
全体	136	44	180

アブスト提出率 96.3%

【2025 秋 (広島大学)】

	口頭	ポスター	合計
低温	186	87	273
磁性	93	83	176
全体	279	170	449

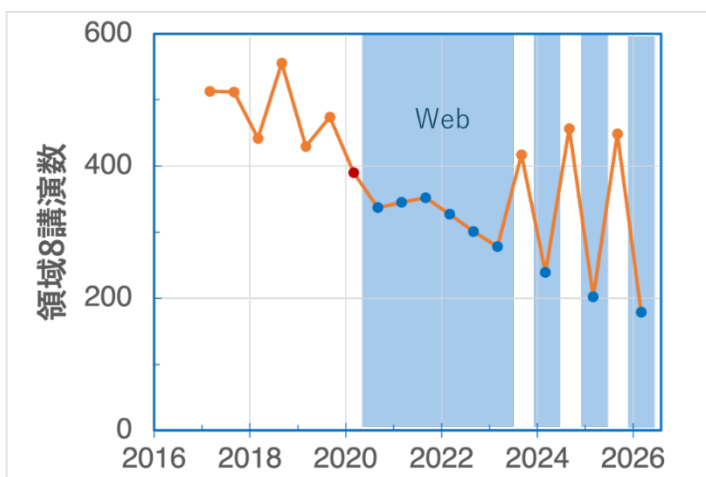
【(参考) 2025 春 (オンライン)】

	口頭	ポスター	合計
低温	97	20	117
磁性	46	39	85
全体	143	59	202

アブスト提出率 95.9%

アブスト提出は、2025 春と同程度.

	2024春	2024秋	2025春	2025秋	2026春
素粒子論	147	217	138	196	115
素粒子実験	199	247	178	211	170
理論核物理	110	124	113	130	84
実験核物理	167	173	139	165	146
宇宙線	193	301	139	301	154
宇宙物理					
ビーム物理		59		56	
計算物理				110	
領域 1	124	223	85	197	92
領域 2	78	109	70	104	56
領域 3	110	244	105	248	108
領域 4	82	156	69	163	43
領域 5	106	203	74	203	65
領域 6	107	155	73	128	62
領域 7	48	110	42	93	53
領域 8	239	454	202	449	180
領域 9	86	124	57	85	58
領域 1 0	62	116	46	78	41
領域 1 1	242	449	233	395	194
領域 1 2	108	244	67	195	65
領域 1 3	77	65	77	67	65
物性合計	1469	2652	1200	2405	1082
学会合計	2285	3773	1907	3574	1751



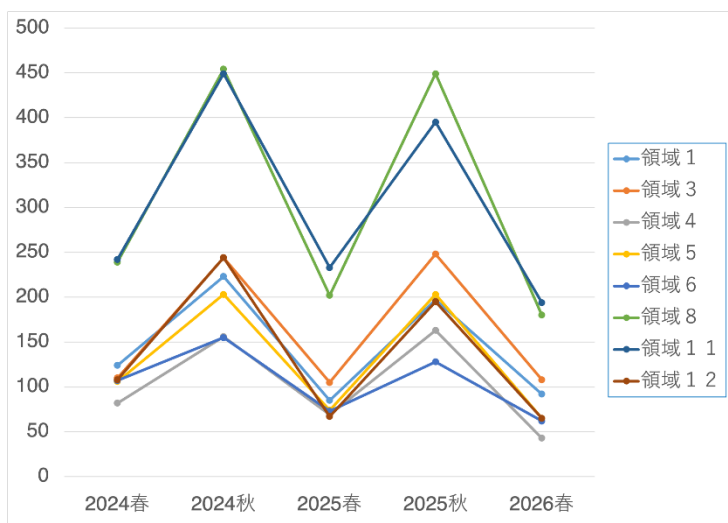
2026春：180 (Web)
 2025秋：449 (広島大)
 2025春：202 (Web)
 2024秋：460 (北大)
 2024春：239 (Web)
 2023秋：417 (東北大)
 2023春：278 (Web)
 2022秋：301 (東工大+Web)
 2022春：327 (Web)
 2021秋：352 (Web)
 2021春：345 (Web)
 2020秋：337 (Web)
 2020春：390 (コロナ中止)
 2019秋：474 (岐阜大)
 2019春：430 (九州大)
 2018秋：556 (同志社大)
 2018春：442 (東京理科大)
 2017秋：512 (岩手大)
 2017春：513 (阪大)

■ 2025年より微減

口頭発表はあまり減っていないが、ポスター発表が減っている。

■ オンライン開催での減少傾向が顕著

他領域との比較（直近4大会，物性上位8領域）



■ 他領域と比較しても増減に大差なし

■ 他領域でも2025年春（オンライン）より微減

議題2：次期領域運営委員の紹介（中山）

領域代表 （2026年4月～2027年3月）有馬 孝尚 （東大新領域, 理研 CEMS）
領域副代表 （2026年4月～2027年3月）柳瀬 陽一 （京大理）

領域運営委員（2025年10月～2026年9月）

岡崎 宏之 （量子科学技術研究開発機構/低温・実験）
森本 高裕 （東京大学/低温・理論）
比嘉 野乃花 （広島大学/磁性・実験）
水野 竜太 （大阪大学/磁性・理論）

領域運営委員（2026年4月～2027年3月）

鈴木 博人（東北大/実験）
大岩 陸人（北大/理論）
松原 愛帆（理科大/理論）
福井 毅勇（立命/理論）
脇舎 和平（岩手大/理論）

上記次期領域代表・副代表、および運営委員の紹介があった。

議題3：次次期運営委員の推薦・承認（中山、水野）

次次期運営委員（2026年10月～2027年9月）

山神 光平（JASRI/低温・実験） （欠席）
田財 里奈（京大→理研/低温・理論）
清水 真 （京大→阪大/磁性・理論）
金城 克樹（東北大/磁性・実験） （欠席）

次次期運営委員4名の紹介があり、出席された先生方から一言挨拶があった。
次次期運営委員として承認された。

議題4：領域委員会報告（黒木）

1. 領域委員会にて、本春季大会における以下の提案が採択された。
 - ・共催シンポジウム：理論と実験の協奏が生み出す超伝導研究の新潮流
2. オンライン大会におけるポスター発表形式の変更について

ショートプレゼンを実施後に、従来通りのブレイクアウトルームに入室する形式とした。セッションの時間帯の選択や細かい運用については、領域の裁量で調整可能。また、発表形式変更の認知を促すために名称を変更することも提案された（例としてショートプレゼンテーションに加え、ライトニングトーク、フラッシュトーク等の案が挙げられた）。

出席者からのコメント

- ・ブレイクアウトルームだと部屋に入りにくいので、バーチャルルームの有料サービスを使うと、気軽に見に行けるのではないか。
- ・多少参加費が上がっても、上記のような有料サービスを利用することも検討していただきたい。
- ・ショートプレゼンがあることを知らない学生、教員がいる。
- ・ショートプレゼンでは、スライド1枚だけなど様式を統一してもよいのではないか。毎回接続確認をするので時間がかかった。

3. 領域再編について

各領域のインフォーマルミーティングで収集されたコメントをもとに、意見交換をおこなった。再編すること自体への否定的な意見はなかった。関連して、合同セッション、キーワード見直しに関する議論もなされた。

4. 80周年国際シンポジウムのサテライトシンポジウムについて

第81回年次大会（2026年）で実施する旨、資料をもとに説明があった。テーマなど具体的な内容については、これから実行委員会で決定する予定。年次大会の間にサテライトシンポジウムを3～4本開催する。

議題5：その他（黒木）

1. 領域キーワードと合同セッションに関する意見交換

背景

既存のキーワードでは分類が難しい新しいトピックスが出現している。「その他」に該当する講演が増えると、プログラム編成の際に、手作業での振り分けに時間を要する。また、類似する内容の講演が他領域で並行して行われ、聴衆が分散する。

見直し時に留意すべき点

他領域で既に設定されているキーワードの追加や、合同セッションの追加には、他領域との相談が必要。

前回のインフォーマルミーティングでの議論、および領域代表・副代表・運営委員内の議論で出た改訂案として、(1)~(5)が追加・変更されることで承認された。なお、(2),(4)の合同セッションについては、追加前に他領域との協議が必要であることが確認された。

(1) ニッケル酸化物超伝導体のキーワードを追加

- ・第二キーワード（研究分野詳細）に「ニッケル酸化物超伝導体」を追加。
- ・第三キーワード（対象物質系）に「ニッケル化合物」を追加（名称は銅化合物，鉄化合物に合わせる）。

理由：ニッケル酸化物超伝導体に関する講演が増加しているが、現状「その他の超伝導体」に埋もれているため、キーワードを設定したほうがプログラム編集側・講演側両者にとって良い。

(2) フラストレーション系の名称変更と合同セッションの追加

- ・第二キーワード「フラストレート磁性」を「フラストレート系」に変更。
- ・「フラストレート系」と領域3「フラストレーション」の合同セッション化。

理由：カゴメ格子金属のように磁性メインではないフラストレート系の研究も増えており、それらを包含するキーワードを設定する。また、領域8と領域3で同様の内容が同時刻に走るケースを防ぐ。

留意事項：合同セッションについては領域3との調整が必要。

(3) カゴメ格子のキーワードの追加

- ・第三キーワードに「カゴメ格子」を追加。

理由：カゴメ格子は磁性だけでなく金属・超伝導という観点でも講演があるため、キーワードとしてあるとわかりやすい。上記のフラストレーション系の細目キーワードとしての利用も想定。

(4) 交替磁性のキーワードへの追加と合同セッションの追加

- ・第二キーワードへの「交替磁性」の追加。
- ・領域3および領域7との合同セッションの設定。

理由：領域8でも交替磁性の講演が行われており、キーワードとしてあるとわかりやすい。領域3と7に同様のキーワードがあり、パラレルセッションの回避のため合同セッション化はメリット。

(5) 希土類のキーワードの変更

- ・第三キーワード「希土類 (Pr系)」を「希土類 (その他)」と統合。

理由：Pr化合物と同等あるいはそれ以上の発表件数がある他の希土類元素が存在しており、

特定のキーワードとして残さないほうが今後管理しやすい可能性がある。

次の(6), (7)については、追加を見送ることとした。

(6)キタエフ液体に関する合同セッションの追加

・第二キーワード「フラストレーション磁性（あるいはそれに変わるキーワード）」や「スピン液体」と、領域3「キタエフ」との合同セッション化。

理由：領域8と領域3で同様の内容が同時刻に走るケースを防ぐ。

コメント：フラストレート系で合同セッションを開催するなら、追加する必要はないのではないか。

(7) スキルミオンの合同セッションの追加

・第二キーワード「スキルミオン」の追加と領域3の合同セッション化。

理由：領域3でのスキルミオンに関する講演との平行セッションの回避。

コメント：追加に前向きな意見もあった。一方で、すでに「フラストレート系」「交替磁性」と2つの合同セッションを提案することにしており、一度に3つの提案は多いのではないかという意見がでた。結果として今回は追加しないこととした。

2. 次回のインフォーマルミーティングの日程について

大会3日目の9月16日（水）の昼休みに開催予定とした。

3. 領域 Web ページの英語化について（播木）

若手奨励賞や学生優秀発表賞の英語化など、現状報告があった。

以上